



大阪東ブロック しろきた支部  
(株)はりよし 吉永 律

一昨年は真田丸のお陰？で大阪の街は賑わったことでしょう。真田信繁（幸村）の終焉には大坂の陣があります。歴史にifはありませんが「もし徳川家康の首さえ取れていれば」天下はどうなっていたでしょうか？城東区にはその大坂の陣での戦いの史跡があり、今回はそれを紹介したいと思います。大坂冬の陣で豊臣軍vs徳川軍が戦った今福・嶋野の戦いです。当時の今福と嶋野はそれぞれ大坂城の北東にある水田地帯で、堤以外は人馬が行動しづらいという地形だったそうです。

豊臣軍は東や京街道方面からの攻撃に備えて、その堤に四重の柵を設けて陣を敷き、現在の寝屋川（当時は大和川）の北岸と南岸で豊臣軍（後藤基次・木村重成、他）と徳川軍（佐竹義宣軍＋上杉景勝、他）が戦いました。大阪環状線が南北に走っていますが、平野川の西側を猫間川という大坂城の外堀の役目を果たす川が玉造南の真田山付近まで流れていたそうです。戦国時代ごろ、嶋野は滋野（諸説有り：ヨシがたくさん植わっていた）とか志宜荘（志宜野）という荘園名で呼ばれていたそうです。今回は城東区内を中心に書かせてもらいましたが、大阪市内にも大坂の陣に関わった史跡が結構ありますので、皆様も巡られて歴史を感じてみてはいかがでしょうか？



日本史の中で、現在において最も身近に語られるのは戦国時代に繰り広げられた数々の天下取りの戦です。織田から、豊臣、徳川と戦いにより勢力が移っていく様や、その戦略については現在ビジネスの考え方にも例えられます。ほんの少しの入れ違いで天下、情勢は変わっていたかも……ですね。（編集西岡）